

<p>【教材・教具名】 鬼の「親分」</p>	<p>【教科・領域】 生活単元学習</p>
<p>【教材の使用材料】 ビニールプール、カラービニール袋、ラピーテープ 両面テープ、ガムテープなど</p>	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴム付きの玉を引っ張り、手を離して鬼に玉を当てる活動を楽しむ。</li> <li>・ 数人で一緒に行い、「引っ張って」「手を離して」など教師の言葉かけを聞いて活動することで、小集団で一緒に活動でき、その楽しさを味わう。</li> <li>・ 分担された係の仕事を行う。</li> </ul>	
<p>○使用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ くすのき祭の学年コーナーで、遊んだり係の仕事をしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鬼を倒す児童 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴム付きの玉を引っ張り、ある程度ゴムが伸びたところで玉から手を離し、鬼に玉を当てる。3個ほど当たったら教師が鬼を前に倒して鬼をやっつけたことを知らせる。</li> </ul> </li> <li>・ 係の児童（子鬼役） <ul style="list-style-type: none"> <li>鬼の衣装や、ご褒美メダルを渡す。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>○工夫した所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「鬼をやっつけた」という達成感を味わえるように、最終的に前に倒す。</li> <li>・ 親分は倒れると迫力があり、かつ、当たっても危険がないようにビニールプールを使用した。</li> <li>・ 1～5名ほどが一斉に玉を当てられるようにした。</li> <li>・ 使用時は、鬼を揺らしたり、部屋を暗くしたり、照明やBGMを工夫したりすることで怖い雰囲気を出すようにした。</li> </ul>	
<p>○効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 玉を投げられない児童・生徒でも鬼に玉を当てることができた。</li> <li>・ 小集団で協力して活動する雰囲気を味わうことができ、親分が倒れたとき「やったー」と小躍りして喜ぶ姿が見られた。</li> </ul>	

